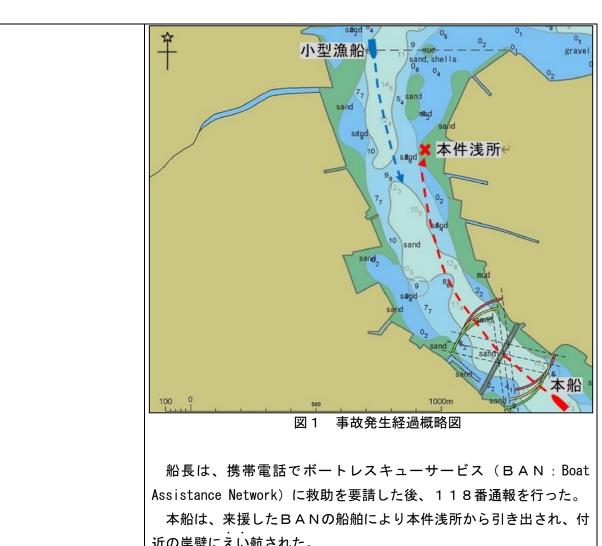
船舶事故調査報告書

令和7年4月23日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和6年6月8日 08時20分ごろ
発生場所	徳島県鳴門市撫養港
	瀬戸港堂ノ浦西防波堤灯台から真方位186°1,110m付近
	(概位 北緯34°12.5′ 東経134°35.2′)
事故の概要	プレジャーヨットあぶさらむⅡは、北進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和6年8月6日、主管調査官(神戸事務所)を指名
	原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーヨット あぶさらむⅡ、4.9トン
船舶番号、船舶所有者等	240-59337静岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	プロペラの脱落
気象・海象	気象:天気 晴れ、風向 西、風力 3、視界 良好
	海象:海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、クルージングの目的で撫養港内の
	水路を北北西進していた。
	船長は、船尾部の操縦席でスマートフォンの航海支援アプリ(new
	pec smart) を見ながら手動操舵で機帆走していたところ、左舷船首
	方から南進する小型漁船を認め、左舷対左舷で通過しようと思い、右
	に変針して北進した。
	本船は、北進中、水路東側の浅所(以下「本件浅所」という。)に
	乗り揚げた。
	(図 1 参照)



近の岸壁にえい航された。

船長は、出航前に海図及び航海支援アプリで水路調査を行い、本件 浅所の存在を把握していたが、北進中、左舷対左舷で通過する小型漁 船と安全な距離を保とうと思って同船を見続けていたので、本件浅所 に向かって航行していることに気付かなかった。

本船の喫水は、船首約0.2m、センターキール下端まで約1.8 m、船尾約1.5mであった。

海図W112(鳴門海峡)によれば、本船が航行していた水路は、 可航幅が約200mであり、本事故発生場所付近は水路の両側から浅 瀬が張り出している。

船長は、救命胴衣を着用していた。

分析

本船は、撫養港内の水路を北進中、船長が、船位を確認していな かったことから、本件浅所に向かって航行していることに気付かず、 乗り揚げたものと考えられる。

船長は、左舷対左舷で通過する小型漁船と安全な距離を保とうと思 い、同船の動静監視に意識を集中していたことから、船位を確認して いなかったものと考えられる。

原因

本事故は、本船が、撫養港内の水路を北進中、船長が、左舷対左舷 で通過する小型漁船と安全な距離を保とうと思い、同船の動静監視に

	意識を集中し、船位を確認していなかったため、本件浅所に向かって
	航行していることに気付かず、乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え
	られる。
	・船長は、浅所が点在する狭い水路で他船の付近を通過する場合、
	他船の動静監視のみに意識を集中することなく、航海計器を活用
	して船位の確認を継続的に行うこと。